

建機、産業機械、発電設備を製作・整備



株式会社筑豊製作所(福岡県新宮町)



昭和53年(1978年)に制定された社是



麻生 誠・代表取締役社長

今回はディーゼルエンジン、建設機械、産業機械の製作・整備、自社ブランドの特殊機械や環境装置の開発に取り組む「株式会社筑豊製作所」取材した。

麻生誠(あそう・まこと)社長。〒811-0196福岡県新宮町の野741-1。☎092-963-3181。社是として「人知無限」を掲げ、昭和21年(1946年)の創業以来、安全第一・迅速な対応・誇れる品質の3つをモットーに、エンジン事業、建設機械・クレーン事業、産業機械事業、開発事業の4事業を柱として製作、販売、修理、点検整備、リース・レンタルなどの業務を展開している。「大型機械の動くところ、筑豊製作所あり」と謳われる同社の取り組みを紹介する。

設立の経緯

麻生典太(あそう・てんた)氏、関谷清一(せきたに・せいいち)氏、森脇謙(もりわき・はかる)氏、中原範一郎(なかはら・はんいちろう)氏の4氏が中心となり、昭和21年(1946年)6月、ディーゼルエンジンの整備を専門に行う株式会社筑豊製作所を福岡県飯塚市立岩に設立した。

初代社長の麻生氏は昭和15年(1940年)に九州大学を卒業後、祖父が設立した麻生商店に入社。半年後、陸軍小倉造兵廠に配属された。小倉造兵廠で出会った九大ヨット部同期で陸軍大尉の関谷氏、九大ヨット部同期で小倉造兵廠同期の森脇氏、小倉造兵廠同期で経理幹部候補生の中原氏

を加えた4氏は、麻生鉱業の車庫内の木炭倉庫を借りて創業した。

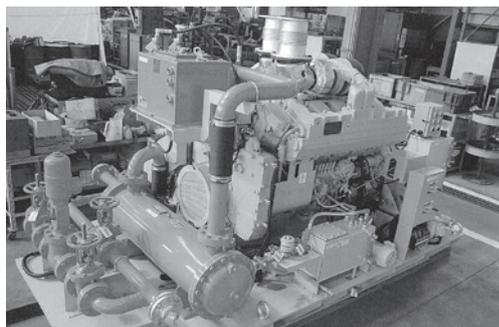
創立35年を迎えた昭和56年(1981年)6月、麻生典太社長が会長に就任。後任の社長には、麻生誠取締役が就任して現在に至っている。

事業の変遷

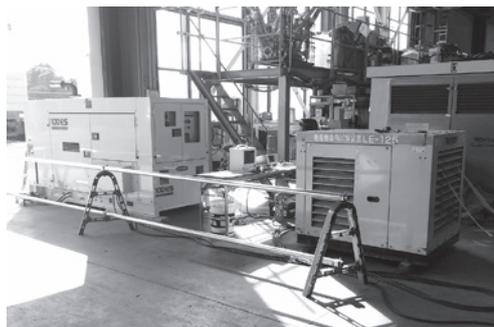
昭和22年(1947年)1月、戦後の復興特需を受け、ブルドーザー、油圧ショベル、機関車の分解整備を開始した。昭和25年(1950年)12月、事業拡大に伴い、本社・工場を福岡市東浜町へ移転した。昭和33年(1958年)3月、運輸大臣より1種整備工場(自動車分解整備事業者が対象)の認定を受けた。昭和36年(1961年)には航空自衛隊よりディーゼル発電機の修理を受注して整備部門が大きく躍進した。同年7月、航空自衛隊の第1補給処東京支処福岡分室を本社内に設置し、小倉市(当時)東港町に小倉工場を新設した。

昭和38年(1963年)11月、小倉工場にL&B自動溶接機とリンクプレスを導入してリンク再生工場を新たに開設した。昭和40年(1965年)9月、本社工場でもL&B自動溶接機とリンクプレスを導入してリンク再生事業に着手した。昭和44年(1969年)8月、小倉工場を北九州市小倉区西港町に新築移転し、北九州支店と改称した。

昭和50年(1975年)3月の東海道新幹線博多開通に先立ち、



エンジン消火ポンプユニット



負荷試験運転中の発電設備



リース用移動式大型クレーン



閘門橋の点検整備に
使われる横行昇降装置



鍛造用30トンのマニプレーター



ビーチクリーナー



15トンの無線運搬台車



ビーチクリーナー

新幹線博多総合車両基地の車軸大修設備の新設工事を受注したのを機に機械器具設置工事業の県知事許可を受けた。平成3年（1991年）4月に機械器具設置工事業、平成4年（1992年）1月に土木、建築、電気、造園、消防施設工事業の建設大臣許可を受けた。平成6年（1994年）6月、本社・工場を福岡県新宮町へ新築移転した。

平成11年（1999年）4月に品質管理システムISO9002を、平成19年（2007年）10月に環境管理システムISO14001の認証を取得した。平成9年（1997年）12月に内発協の自家発電設備に関する工場認定（当時）を、平成14年（2002年）4月に内発協の自家発電装置の製造事業者の認証を取得したのに伴い、自家発電設備の修理業務が増加したという。

業務提携と事業の発展

筑豊製作所では、昭和24年（1949年）12月のディーゼル機器株式会社（現ボッシュ株式会社）を皮切りとして、昭和26年（1951年）6月に澤藤電機株式会社とそれぞれ特約代理店契約を締結した。

また、昭和31年（1956年）6月には株式会社小松製作所、昭和34年（1959年）10月には株式会社神戸製鋼所とそれぞれ整備指定工場契約を締結した。さらに、昭和46年（1971年）10月には住友建機株式会社と指定サービス工場契約を、昭和62年（1987年）8月には日本車輛製造株式会社と指定修理工場契約をそれぞれ締結した。

九州では昭和35年（1960年）の宮崎県一ツ瀬ダム建設の着工を機にトラック・バス・乗用車の普及やセメント鉱山の機械化が進んだ。これを受け、筑豊製作所ではブルドーザー、パワーショベル、トラック、ケーブルクレーンなど

の建設機械や特殊車輛のメンテナンス、アタッチメントの修理加工、自動車部品の受注が大幅に増加した。また、国内では昭和39年（1964年）の東海道新幹線開業と東京オリンピック開催も追い風となりテレビや電送機など通信インフラ整備が急速に進められ、同社は電装部品の販売が拡大して売上高を急速に伸ばしていった。

注力する部門

筑豊製作所では顧客の要望を満たした特別仕様の一品生産を行っている。引き続きグループ企業と連携して、ディーゼル発電設備、エンジン消火ポンプユニット、クレーン、昇降装置、搬送装置、ビーチクリーナー、産業廃棄物プレス結束機、鍛造用マニプレーター、バケットなどの製作、販売、据付、修理加工、点検整備を推進していく。移動式大型クレーンなど建設機械のリース・レンタル事業にも積極的に取り組む。営業拠点として、本社、福岡・北九州・唐津の3支店、飯塚・久留米・佐賀・熊本・大分の5営業所、札幌事業所を開設している。

グループ企業として、発電設備・コージェネを扱う「シー・エス・エンジニアリング株式会社（福岡県新宮町）」、移動式クレーン・地盤改良機のリース・レンタルを行う「ケイ・シー・レンタル株式会社（福岡県新宮町）」、建設機械全般を扱う「壱岐重販株式会社（長崎県壱岐市）」、ディーゼルエンジン燃料噴射装置・自動車部品・油圧機器・産業機械を扱う「株式会社ゼクセル販売九州（福岡県新宮町）」、油圧機器・自動車機器を扱う「筑陽精機工業株式会社（福岡県篠栗町）」、自動車部品・精密機器を扱う「有限会社田代自動車整備工場（長崎県佐世保市）」などがある。